

江東未来会議
第2分科会（産業・生活分野）
第3回 議事概要

日時：平成19年11月7日（水）19:00～21:00

場所：江東区文化センター2階 旧区政PRコーナー

参加人数：24人

1. 開会

2. 事務局からの連絡事項

3. ワークショップ

（1）第2分科会で主に取り組むテーマの確認と選定（グループ分け）

①次回以降のスケジュールについて

○深田コーディネーター

資料「第2分科会スケジュール（予定）」説明

- ・全体のスケジュールが非常にタイトなため施設見学会は実施せず、次回第4回会議は、これまでと同様、平日夜の会議として開催することとしたい。開催日程は、本日の欠席者も含めてご都合をうかがった上で、後日事務局よりご連絡させていただきたい。

（特に異論なし）

②検討対象とするテーマ設定の考え方について

○深田コーディネーター

資料「第2分科会の検討対象とするテーマ設定の考え方について」説明

○参加者

- ・10年後の将来は、分野に分けて考えるよりも、各分野を組合せて考えるべきではないか。

○参加者

- ・グループに分かれる場合、各グループの人数バランスを考慮する必要がある。

○参加者

- ・前回と同じグループメンバーで、細部の議論を深めた方がよい。

○参加者

- ・目的意識を持って参加しているのに、前回は各論の議論に入れないジレンマを感じた。

○参加者

・「ワークショップ」という形式にこだわる必要はない。開催回数も少ないので、早く核心に触れる議論に入った方がよい。

○参加者

・コミュニティと文化は密接に絡んでいる。産業系とそれ以外に分けてはどうか。

○参加者

・観光は大事な要素なので、産業と観光を一緒に考えてはどうか。

○参加者

・観光は文化と一緒に考えた方がよい。

○参加者

・「産業・消費生活」「コミュニティ」「文化」「観光」に分けた理由は何か。

○深田コーディネーター

・現行の基本計画の分野区分に従って抽出したものである。

○参加者

・区長に提言する具体的内容に絞って議論を進めていく必要がある。

○参加者

・提案内容については参加者主体で進めるが、会議の進め方については事務局に上手くリードしてほしい。

多数決の結果、「観光」は「文化」と同じグループにするべきという意見が参加者の半数（12名）を占め、「産業・消費生活」と同じグループにするべきという意見の参加者数（3名）を上回ったことから、「観光」は「文化」と同じグループにすることとなった。

また、グループ分けは、「3テーマに基づくグループ分け」を希望する人数が、「前回と同じグループメンバー」を希望する人数を大きく上回ったことから、「産業・消費生活」「コミュニティ」「文化・観光」の3つのグループに分かれ、議論を進めることとなった。

各グループの参加希望者数は、以下の通りである。

<各グループ参加希望者数>

○産業・消費生活グループ：8名

○コミュニティグループ：6名

○文化・観光グループ：10名

(2) テーマごとの課題の整理

①グループ別作業・討議

「産業・消費生活グループ」「コミュニティグループ」「文化・観光グループ」の3つのグループに分かれ、壁に貼り出された前回の検討結果（模造紙）を参考に、各テーマについて足りなかった視点や事項、課題を抽出し、グループの中で課題の分類・整理を行った。

【作業結果】詳細は別紙（「第3回江東未来会議 産業・生活分野」グループ討議結果）参照

②発表

○産業・消費生活グループ

- ・大きく産業と消費に分けて議論した。消費面では、区民が銀座や日本橋など区外で消費している実態があるので、「区産区消」を実現していきたい。「区産区消」には、若い人が楽しめる産業を育成していく必要がある。
- ・江東区は、都心にも近く、就業地と居住地の間が比較的近い。こうした特徴をさらに活かし、「学職住」の交流を進めていければよい。
- ・産業面では、東陽町にIT産業が多かったり、湾岸地域に物流関係の産業が多かったりするが、より特徴をもった産業エリアを作るべきである。
- ・将来、企業が区外に出ていかないよう企業の定着化を進めていく必要がある。そのためには、テーマ性を持った誘致活動が必要だが、一方で、深川地区など地元中小企業をより活性化していくことも忘れてはならない。
- ・全体としては、住民も含めて都市計画、産業を強化し、地域の特徴にあった産業を誘致することが必要である。

○コミュニティグループ

- ・コミュニケーションがキーワードであり、「コミュニティはコミュニケーション」である。
- ・町会、町内会、自治会は区と繋がっているが、マンション管理組合には、区との繋がりがなく、連絡1つとっても格差がみられる。
- ・目黒区の学校では、高齢者が自分の経験を子どもたちに教える場を設けている。世代間のコミュニケーションの場として学校を有意義に使いたい。
- ・子育ての視点からは、プレイパーク（遊び場）を作ることをもう少し考えたい。プレイパークが出来ることによって、子どもを持つ家庭同士でのコミュニケーションも図られ、様々な交流の輪が広がる。
- ・図書館や文化センターといった区の施設が少ない地域がみられる。
- ・商店街の空いた場所に「集まる場所」ができないか。実際にも事例があるようだ。
- ・子どもを少し預けたい時に、隣の家頼むことができるのがコミュニティである。コミュニティには、普段からのコミュニケーションが大切となる。

- ・区内にも大学の進出がみられるが、レベルの高い講座で、区民も勉強になる公開講座がある。

○文化・観光グループ

- ・江東区は、水や川の文化の発祥地である。江戸時代から着々と神社仏閣がつくられ、名所が非常に多く、重要文化財もある。これらを組み合わせて文化と観光を進めていきたい。
- ・下町文化の創造や江戸の地区や本所・深川の歴史を学ぶなどして、下町の情緒・伝統を何としてでも守りたい。
- ・人を惹きつける観光としての価値のPRが不足している。名所の周りの街づくりを完了する、神社の入り口を10年後には江戸時代のように作るなどのアイデアも出された。
- ・貨物線が寸断されているので、クローバー橋と繋げる、小名木川のプロムナードを優先して繋げる、エリア別の特色づくりなどのアイデアも出された。
- ・下町文化を考える、子どもの教育、中学生による観光ガイド、江東区のカレンダーの作成など、中高生にアプローチし、自分たちの周辺の文化・観光を学ぶためのアイデアが出された。若い人たちにも、下町文化の普及や、街の文化ガイドができるようになってほしい。
- ・実現できるかどうかかわからないが、文化・観光面の将来青写真だけでもつくりたい。

4. その他

○深田コーディネーター

- ・次回の前半は、今回話し足りなかった部分を中心に、後半はどのような提案していくのかを中心に、議論していただきたい。
- ・次回の日程は、提出していただいた日程調整シートをもとに後日事務局より連絡させていただきます。

(以上)

産業・消費生活グループ

消費

若い人が呼びこめる産業

区産区消(区民が区内でお金を消費)

学職住

産業

テーマをもった企業誘致

地元中小企業の活力強化

産業に着目した都市計画

企業の定着化

コミュニティグループ

- ・コミュニティの基本はコミュニケーション
- ・マンション管理組合と自治会の違い 連絡一つとっても(区からの行政サービスの違い)
- ・学校の有意義な利用(目黒区では老人が子供に教える場がある)
- ・プレイパークを作りたいがなかなか進まない 異世代交流を図る
- ・住まいの周りに施設が少ない 一度区内マップに図書館・文化センターの分布を調べてみよう
- ・商店街の中の空スペースに「つどいの場所」を作っている
- ・子供の一時預かり
- ・大学の公開講座

文化・観光グループ

下町の情緒・伝統を何としてでも守りたい
どうしたらいい

未来の下町文化の創造

江戸の地区
本所+深川の歴史を学ぶ

人をひきつけられない
観光としての価値のPR不足

名所の廻の街づくりを完了する
寺口神社の入口を江戸時代の建物にする

南北の交通
(乗物、遊歩道)

不便な往来
巡回バスをつくる

猿江公園の木道を遊歩道にする

JR貨物線を利用
乗客を乗せ南北を通行容易にする

小名木川へ定期船を通す
江戸川区-小名木川-日本橋・水道橋へ

お台場や豊洲と森下・亀戸の下町のマッチング、どう繋ぐか？

亀戸のJR貨物線の観光電車化する

江東区に蒸気機関車を走らせる

小名川の遊歩道を親水公園まで(クローバー橋)

小名木川のプロムナードを優先してつなげる(工事を進める)

エリア別の特色づくり

現在の下町文化の再考

誇りを持てるようになる

江東の町に誇りがもてる江東の歴史教科書の作成

江東区の川をより美しくし、プロムナードでつなぐ

下町文化地図を作る

江東区のイメージ的文化の強化策(上位10項目?)

江東区に誇りのもてる小・中学生への歴史・文化教育の充実

江東区歴史カレンダーの作成

区内の中・高にアプローチして自分達の周辺の文化・観光・財を学ぶ講座を設ける

伝統教育

下町文化の広め方(特に若者に)

街の文化財のガイドが中学生でもできる

子供達の感性を活かす文化作り

夢作りが未来をつくる